

校内研究だより#2

特活・未来部会

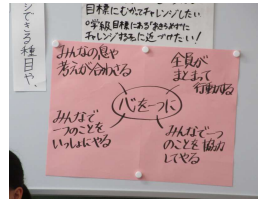
第5学年学級活動(1) 「レッツチャレンジ!5の1ギネス大会をしよう」

《授業について》

9月15日水曜日、今年度2回目となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、第5学年の学級活動(1)として、「クラス全員で、心を一つにしてチャレンジできる種目や会を盛り上げる工夫、役割を話し合って決めることができる。」ことをねらいとして授業を行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【事前の準備】

- ・話し合いが自分本位にならないように、事前に「全員が心を一つにして」とは、どういうことか話し合い、共通理解させた上で本時に臨ませた。また、それぞれの種目を実際に行うことで、その種目のもつ特性を理解させ、その種目独自の良さを根拠として自分の意見が言えるようにした。
- ・計画委員や司会グループと事前の打ち合わせを丁寧に行うことで児童が話し合いに主体的に臨めるようにした。また、意見が分かれたときにどうするかなど、具体的な場面を想定して準備を行った。
- ・自分の意見がすすんで発言できるように、自分の意見やその根拠を事前に考えワークシートにまとめる時間を設定した。



②【本時の話し合い】

- ・ほぼ全員が自分の考えを発表することができた。その中で、「偶然性が高い種目は、目標を達成しても、心を一つにするためには適さないのではないか。」「怪我をしている児童が、みんなと同じように参加できないことに不安を感じる。」などの意見が出て、それを解決しようとする中で、話し合いが更に深まっていた。
- ・役割決め場面では、人数の偏りが出た際、司会グループの「変わってくれる優しい人はいませんか。」という投げかけに答え、数名に児童がすすんで違う役割に変更する姿が見られた。



指導・講評

- ◎ 学級会ノートや活動計画書を用いた念入りな事前準備が、児童の安心感と話し合いの質を高めることに繋がっていた。
- ◎ 単なる多数決や「心を一つに」という抽象論ではなく、種目の特徴や相手の事情（怪我をしている児童への配慮）に基づいた、具体的で納得感のある合意形成へのプロセスが見られた。
- △ ある程度意見が出ていた中で、今回はグループで話す時間はなくてもよかった。その分の時間を「まとめる」に使うことで、役割分担まで時間内に終わらせることができたかもしれない。
- △ 話し合いをしていく中で、最終的に意見が1、2個しか出ていないものに決める場合は、再度全体に確認し、全員が納得する方向に導く必要がある。
- ・ 今後は、振り返りをする際、「頑張ったこと」だけでなく、一連の活動を通して、「自分自身がどのような力を得ることができたか」という視点で振り返りをするのが重要。
- ・ 次期学習指導要領に基づき、「生活づくりへの参画」という視点で、問題解決だけでなく、より豊かな学級生活を目指す前向きな議題設定が重要になってくる。